

様式第2号（第3条関係）

審 議 会 会 議 録

会議名称	平成29年度 第1回 伊達市健康づくり推進協議会定例会議		
議 題	(1) 平成28年度活動報告並びに平成29年度活動計画について ・「第2次伊達すこやか親子21」について ・特定健康診査、特定保健指導について ・「第2次健康づくり伊達21」について ・感染症対策事業について (2) 平成28年度高齢福祉課活動報告について		
開催日時	平成29年7月7日（金）午後6時30分から午後8時30分まで		
場 所	伊達市保健センター		
出席者	出席者13名（欠席者2名）		
	所属部課名	健康福祉部健康推進課	
公開 非公開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	なし
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p>【会議の概要】</p> <p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 健康福祉部長挨拶</p> <p>4 議 事</p> <p>(1) 平成28年度活動報告並びに平成29年度活動計画について</p> <p>(ア) 「第2次伊達すこやか親子21」について</p> <p>(質疑応答)</p> <p>(a) 委員：妊婦が3食食べない理由などについては、アンケート調査などを実施しているか。</p> <p>(b) 事務局：母子手帳交付時、マタニティ教室の際に妊婦から聞いている値である。つわりで体調が悪い方などがおり、3食食べている割合が低い状況にある。</p> <p>(c) 委員：妊婦や子供を産んだ後は、料理を作るのが大変な時期であるため、簡単に作ることができるパッククッキングをおすすめする。パッククッキングは高齢者への取り組みの一つにもなる。</p>			

(e)事務局：市では、お母さんの他にも、学童保育の際に、小学生たちへ簡単にできる、おにぎらず等を紹介し、朝ごはんの大切さなどを教える取り組みを行っている。今後も3食の欠食割合を減らす取り組みを行っていききたい。

(c)委員：妊婦の喫煙を無くすための指導内容をお聞かせ願う。

(e)事務局：妊婦の他、同居している夫などの家族に聞き取りを行っており、妊娠して喫煙をやめた者がほとんどだが、禁煙できない妊婦に対しては、胎児へのタバコの影響を具体的に説明したり、また喫煙している夫には、20年禁煙した場合、私立大学の授業料を賄うことができる額を節約できるなどを説明して、禁煙を働きかけている。

(f)委員：今後も妊娠期間の喫煙リスクを客観的にかつ徹底的に教えてほしい。

受動喫煙についても教えてほしい。

(イ) 特定健康診査、特定保健指導について

(質疑応答)

(a)委員：マンモグラフィーは、発見しづらいタイプのもがあるとテレビで放送されていた。地域によっては、日本人の乳腺は発見しづらいタイプである旨を積極的に周知しているところもある。伊達市は、どうしているのか。

(b)事務局：特に積極的には周知していない。

(c)委員：今後は、市が実施する乳がん検診のマンモグラフィーを毎年受診していたにもかかわらず、乳がんが進行していた場合には、クレームが生じることもありうるので、市のリスクを下げる取り組みが必要と思うが。

(d)事務局：今後、検討は必要であると考えている。

(e)委員：中学生の段階でピロリ菌陽性反応が出たとしても、数年後に除菌しても良いと聞いているが、その場合における費用助成などについて、今後の伊達市の考えをお聞かせ願う。

(f)事務局：現在の取組みは、中学校2年生の段階で陽性反応が出た場合で、除菌をすぐしたい場合は、市が除菌費用を助成するといったものであり、数年後除菌することを選択することも可能である。数年後に除菌する場合は、現在市で助成している一次検査から再度行うこととなり、自己負担で行ってもらうこととしている。

(ウ) 「第2次健康づくり伊達21」について

(質疑応答)

- (a) 委員：健康寿命延伸アプリで測定された歩行速度の活用内容についてお聞かせ願う。
- (b) 事務局：歩行速度は、性別、身長、体重、年齢等に応じて測定され、全国平均と比較し、本人の目安としてもらい、平均より速い遅いをスマホ表示により知ってもらうことで、運動への動機付けを目的としているものである。
- (c) 委員：健康づくりサポーター事業についてだが、かつて本協議会において、高齢福祉課の介護予防事業で実施している講師バンクと情報を共有してはどうかと意見を述べていた。市民目線では、一本化されたリストの方が見やすいものである。その後の本件に係る協議の進捗状況をお聞かせ願う。
- (d) 事務局：健康づくりサポーターの情報を合わせるという協議を行っていない状況である。対象や分野別など市民の方たちが見やすい内容のものに整理していく必要がある。
- (e) 委員：利用しやすさを今後、検討願う。
次に、健康づくりポイント事業のポイント対象事業や対象の拡大について、健康づくりサポーターが実施する事業への参加者に対するポイントはどのように対応を考えているのか。また、大滝区におけるポイントを取得できる事業が少ないものとなっており、大滝区のノルディックウォーキングコースで健康づくりサポーターがウォーキング事業を行った場合があるが、このような事業に対するポイント対象事業や対象の拡大をどのように考えているかお聞かせ願う。
- (f) 事務局：他の自治体の取り組みでは、自治体が示している対象事業以外に自主的に行った健康運動や健康的な食事などを行った場合に自己申告によってポイントを付与している例があり、幅広いポイント付与方法があると捉えている。
ポイント事業が始まり、日が浅いことから、現在においては、検診の受診率向上を目指したポイント方法を基本とし、同事業の周知を行っていきたい。平成29年度は、検診受診によるポイント付与のほかに、スタンプラリーによる、視覚的に健康づくりの効果が感じることができ的事业を試みているものである。
大滝区内の飲食店において、ベジファースト加盟店が増加したことから、今後はポイント対象事業の拡大や対象の拡大を関係部署及び団体などと連携しながら、協議を進めていきたい。

(エ) 感染症対策事業について (資料 伊達市保健センター概要)

(質疑応答)

(a) 委員：高齢者肺炎球菌ワクチンについて、5年間隔で接種するものだが、高齢者は接種間隔や履歴を忘れてしまうことが多いことから、何かサポート方法があれば助かると思う。

(2) 平成28年度高齢福祉課活動報告について

(質疑応答)

(a) 委員：家族介護教室は高齢福祉課の事業であるが、本教室は数年間、講師として携わっており、社協への委託事業ではあるが、市の共催事業であるものと認識している。昨年から、資料に表記されていない。

市の共催事業であることから、本事業を強い意識で取り組んでほしい。

教室開催の広報に苦慮しており、広報だてに掲載依頼したとしてもスペース不足で掲載不可となったり、伊達市の活動カレンダーに掲載依頼したところ、教室名のみでありまったく目に付きづらいものであった。

受講リピーターの多い好評の教室であり、受講者から広報不足について、指摘を受けている状況であり、受講したかったが知らなかったという声が多いものである。

8月から12月にかけてカルチャーセンターで5回開催する予定なので、もう少し、バックアップに力を入れてほしい。

(b) 委員：在宅医療問題についてだが、団塊の世代が75歳となる25年問題があり、地域医療構想は今後大きく変わる事となる。

現在の療養型を中心としている医療が、在宅医療にシフトされる時代が近々に迫っている。

伊達市のように医療介護福祉が、経済を支えている特色のある地域では、在宅医療問題について、医療関係団体などと連携し、取り組んでいかなければいけないものである。委員からの要望があった教室に対する市の支援もたくさんある大事な問題の中のひとつである。

閉 会